

「園芸導入事例」、「支援事業」、「研修案内」など紹介します

1億円産地を目指して！

◆生産者や団体、関係機関が一体となって取組んでいます！

県は新潟県園芸振興基本戦略を令和元年に作成し、令和6年までに販売額+1億円以上の産地を倍増させる目標を掲げています。また、園芸栽培面積1,000ha増を目指すとともに、新たに園芸に取組む農業者の拡大を図りたい考えです。そのため、当協議会でも昨年度開催した「園芸参入塾」など目標達成に向けた取組みを行っています。今年夏には、「道の駅あがの」が開業予定です。これらの新規販路先を有効活用し、皆で1億円産地を目指しましょう。

～阿賀野市における1億円産地を目指す取組みとして作成した産地育成計画～

- 旧JA北蒲みなみ地区 目標：R6：130,000千円（R3：43,634千円）
面積：40ha（R3：11ha）
品目：（施設）ぶどう、いちじく、トマト、冬野菜（ほうれん草・小松菜・春菊）
（露地）そらまめ、カリフラワー、ねぎ、キャベツ、枝豆、玉ねぎ、里芋
→R4.2月に設立された園芸部会を中心に、市内の学校給食、直売所やインショップ等の産地消に力を入れ地域園芸の活性化を図ります。
- 旧JAささかみ地区 目標：R6：108,150千円（R3：19,749千円）
面積：30ha（R3：10.16ha）
品目：枝豆
→・栽培面積の拡大に対応できる集出荷選別施設が完成し、R4.7月から稼働予定です。
・生産者数が拡大しており、新たな販路の開拓も行っています。

～今年度からお知らせ方法を見直します～

阿賀野市農業振興協議会園芸部会では、年5回の園芸情報発行と県からのお知らせなどを配布してまいりましたが、令和4年度からは、農業者への周知方法を段階的に見直すこととします。

つきましては、戸別配布を廃止し、回覧等で周知します。また、市の公式LINEに新たなカテゴリとして「農業」を設け、皆様に対して必要な情報を提供いたします。

急なお知らせになり恐縮ではございますが、ご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

阿賀野市のホームページからもご覧いただけます！

阿賀野市 園芸情報

検索



もしくは、二次元コードを読み取ってください。

★JA・農林課・普及センターでは、さまざまな品目の栽培指導や支援を行うなど、園芸生産をサポートしています。ご興味がある方は下記までお問い合わせください。

- | | | |
|---------|-----------------------------|-----------------|
| 【問い合わせ】 | ○JA新潟かがやき あがのアグリセンター（中島・樋口） | TEL62-2235 |
| | ○JA新潟かがやき ささかみアグリセンター（石山） | TEL25-7252 |
| | ○阿賀野市農林課農林振興係（直通） | TEL61-2478 |
| | ○新発田農業普及指導センター（野菜） | TEL0254-26-9126 |
| | ○新発田農業普及指導センター（花・果樹） | TEL0254-26-9155 |

園芸関連支援事業紹介

【県の支援事業】

(県の支援事業に係る問い合わせ先)
 新発田地域振興局農業振興部 TEL0254-26-9146

こんなとき、●の事業が活用できます

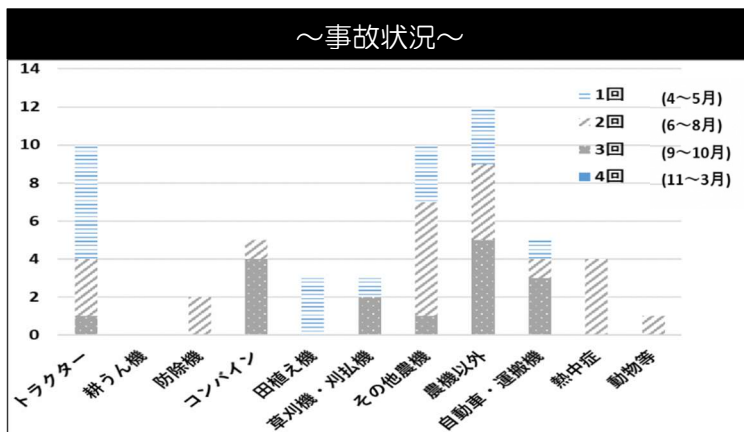
事業名	メニュー	た	機	ハ	水	集	新	た
		産地に園芸を導入したい	械を導入したい	ウスを導入したい	稲育苗ハウスを活用したい	出荷施設を整備したい	品種・新技術を導入したい	販売拡大・販売促進に取り組みたい
園芸拡大農地フル活用事業	水田及び畑地活用園芸生産	●	●					
	水稲育苗ハウス活用園芸生産	●			●			
果樹園等の経営資産の円滑な継承事業	—	●						
大規模園芸産地創出事業	ほ場整備連携大規模園芸産地育成		●	●		●		
	機械化・施設化園芸産地育成		●	●		●		
	1億円産地課題解決支援	●					●	●
農林水産業総合振興事業	園芸生産支援	●	●	●		●	●	●

【市の支援事業】

- ・土づくりに取り組み、安全安心な農産物を目指す⇒ **安全安心農産物生産推進事業**
 - ・土づくりに取り組み、えんだまの産地化を目指す⇒ **えんだま産地化推進事業**
- (市の支援事業については、阿賀野市農林課農林振興係(直通) TEL61-2478 までお問合せください。)

～農作業事故に気をつけましょう～

県内で発生した令和3年4月～令和3年10月末までの農作業事故調査によると、事故件数が58件と昨年同時期と比べ5件減少していますが、死亡事故(死者数)は2件(2人)増加しています。また、下図のとおり機械による事故が多くなっています。死亡事故要因第1位はトラクター乗車中の事故です。自動車のシートベルト着用率が98%のところ、トラクターは12%と低いいため、約5人に1人が亡くなっています。シートベルトを着用していれば大切な命を守ることができます。日ごろからシートベルトの着用を意識し、安全運転を心掛けましょう。



※新潟県農林水産部農産園芸課・令和3年度農作業事故発生状況(10月末現在)より